

第4学年1組 社会科学習指導案

平成27年2月5日(木) 公開授業 I
会場 2階-③教室
授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 大矢 和憲

1 単元名 This is わたしたちのまちづくり - 県内の特色あるまちづくり -

2 本単元の価値

本単元は、学習指導要領3学年及び4学年の内容(6)ウ、(7)アに準拠して設定したものである。本単元の目標は次のとおりである。

自然環境や地域に残る文化や伝統を生かしたまちづくりの様子や、市民が主体的に工夫や努力、協力をしてまちづくりをしている様子を具体的に調べたり考えたりすることを通して、地域の特色を生かしたまちづくりの概念を獲得することができる。

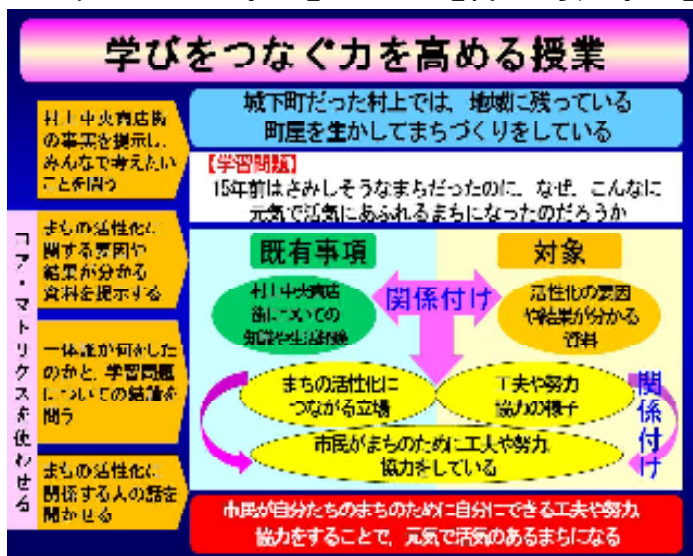
本単元では、県内の「特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている地域」として、村上市と十日町市の事例を取り上げる。

村上市は新潟県下で最も古い城下町であり、全国でも珍しく城下町としての四大要素(城跡・武家屋敷・町屋・寺町)が現存している地域である。その中心部にある中央商店街では、近年城下町村上の資産である町屋を生かした住民主導のまちづくりが行われ、年間30万人の観光客が訪れるまでになった。現在も年間を通して市民主体による様々な取組が行われている。この事例からは、「歴史ある建造物や街並み、祭りなどの地域の伝統や文化を受け継ぎ保護・活用しながら、地域の人々が互いに協力して、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていること」を学ぶことができる。

また十日町は、「現代雪まつり発祥の地」として知られている。豪雪地域でありながら、「雪を友とし雪を楽しむ」という住民の自発的な思いから「十日町雪まつり」が始まった。また、国の伝統的工芸品に指定されている「十日町絨」と「きもの」文化がまちの資産であり、きもの産業は伝統の地場産業として根付いている。この事例からは、「自然と伝統的な工業を保護・活用しながら、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていること」を学ぶことができる。

これらのまちづくりの事例から、その地域に住む人々の工夫(知恵)や努力(汗)、協力の様子や願いを具体的に学ぶようにする。どちらも地域の特色を生かしたり、地域に住む人々が互いに協力したりして、自分たちのまちを元気で活気あるまちにしようとしてまちづくりをしている。このような県内のまちづくりの様子を学ぶことで、県に対する誇りと愛情を育むことや、自分が住む地域のまちづくりについて考えていくことができる単元である。

3 単元における学びをつなぐ力を高めた姿と学びをつなぐ力



(1) **学びをつなぐ力を高めた姿**
地域の特色を生かした**元気で活気のあるまちづくりの概念**をとらえる姿

村上市中央商店街が、年間30万人もの観光客が来る元気で活気あるまちになった事実について追究することを通して、「**市民が自分たちのまちのために自分にできる工夫や努力、協力**をすることで、**元気で活気あるまちになる**ことが分かった。だから、わたしも自分の地域の活動に進んで参加してまちづくりに協力していきたい」などと考える姿。

(2) **対象**
村上市中央商店街の取組に関する資料(活性化の要因や結果が分かる資料)

(3) 学びをつなぐ力

「たくさんの観光客が訪れる元気で活気のあるまちになった事実」について、以下のように問題解決していく力。

- ① **比較するすべ**や**関係付けるすべ**を用いて、既存の知識と村上中央商店街の新たな事実との間にずれを感じ、驚きや疑問を関連付けて、学習問題を設定する力。
- ② **関係付けるすべ**を用いて、既存の知識や生活経験を基に、「誰が何をしたのか」と多面的・多角的に学習問題の解決につながる立場と方策(工夫や努力、協力の様子)を見いだす力。
- ③ **関係付けるすべ**を用いて、立場と方策を総合して学習問題についての結論を考える力。

(4) 考え方の自覚

比較・関連付け・総合して考えたことや、考え方の有用性を自覚している姿

子どもは、村上中央商店街がかつて城下町であったことや、昔から残る町屋を生かしてまちづくりを始めたことを学習してきた。また、見学を通して、町屋の価値やよさを感じている。多くの子どもは、「城下町だった村上は、地域に残っている町屋を生かしてまちづくりをしている」ととらえている。しかし、まだ誰がどのようにしてまちづくりをしているのかは分からない。

このような子どもが目指す姿になるには、ただ地域の町屋を生かしているだけでなく、住民、市民の工夫(知恵)や努力(汗)、協力が元気で活気のあるまちづくりにつながっていることに気付く必要がある。そのために、以下のように働き掛ける。

4 指導の構想

働き掛け1

商店街の15年前と現在の変化が分かる事実を提示し、これからみんなで考えたいことを問う。

元気で活気のあるまちづくりについて追究させていくために、まず、村上中央商店街の15年前の写真(資料①)を提示し、気付いたことを問う。子どもは、当時は店のシャッターが閉じ、ほとんど人通りのない、さみしいまちだったということに気付く。さらに、住民から聞いた情報として、まちの人たちに元気がなかったことや、まちから出ていく人が多かったこと、商店街を大きな道路にして新しいまちにすることに決まりかけていたことを伝える。見学に行ってきた子どもは、この事実を聞いて、「どうして大きな道路の新しいまちにならなかったのだろうか」と驚きや疑問を感じる。

次に、村上中央商店街の現在の写真(資料②)と年間に30万人の観光客が訪れるようになったこと、さらに住民から聞いた情報として、まちの人たちが元気になったことやまちに戻ってくる人が出てきたことを提示し、驚いたことや疑問に思ったことを問う。子どもは、**比較するすべ**や**関係付けるすべ**を用いて、以前のまちの様子と現在のまちの様子から、「なぜこんなにたくさんの観光客が来るようになったのか」「どうしてまちの人が元気になったのか」などと、驚きや疑問を感じる。しかし、この場面で、既存の知識を基に「町屋を生かしたまちづくりをしているからじゃないか」と考える子どももいる。そこで、見学に行ったときの商店街の様子(人があまりいなかった)を問う。子どもは、「町屋だけじゃなくもっと別の何かがあったのだろうか」と疑問を深める。

このような子どもにこれからみんなで考えたいことを問う。子どもは、**比較するすべ**や**関係付けるすべ**を用いて驚きや疑問を焦点化し、「15年前はさみしそうなまちだったのに、なぜこんなに元気で活気にあふれるまちになったのだろうか(どうやって観光客を増やしたのだろうか)」と、元気で活気のあるまちづくりについて追究する学習問題を設定する。

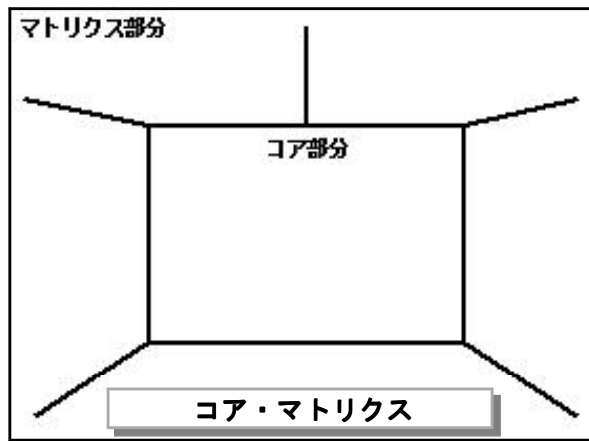
働き掛け2

村上市中央商店街の取組に関する資料(対象)を提示し、資料から分かったことや考えたことを付箋に書かせ、コア・マトリクスに整理して貼らせる。

根拠となる事実を明らかにして多面的・多角的に考えさせるために、「どのようなことが分かれば考えられそうか」と問う。子どもは、学習問題を解決するためには、何があったのかや誰が何をしたのかが分かれば考えられそうだと考え、それらが分かる資料を求める。そのような子

もに、商店街の取組に関する資料(資料③：対象)を提示し、まずは、資料から分かったことや考えたことを付箋に書かせる(個人活動)。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて資料を読み取り、商店街についての既知の知識や生活経験を基に、まちの活性化につながる立場や方策を見いだしていく。

その後、小グループにコア・マトリクス(右図)を配付し、似ている付箋で整理してマトリクス部分に貼らせる(グループ活動)。このとき、どのような分け方をするのか、グループで相談して整理するように指示する。子どもは、**分類するすべ**を用いて、まちの活性化につながる立場や方策を視点に付箋を整理する。



働き掛け3 (1日目)
誰が何をしているのか問い、考えを交流させた後、学習問題についての結論を問う。

元気で活気のあるまちづくりのための結論を考えさせるために、まず、「誰が何をしていることが分かりましたか」と問い、考えを交流させる。立場と方策を問うことで、子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、まちの活性化につながる立場と方策を明確にし、住民や市民の工夫や努力、協力の様子を挙げる。このとき、学級全体のコア・マトリクス(マトリクス部分)に子どもの考えを記述する。子どもは、まちの活性化につながる要因を多面的・多角的に見だし、共有する。

----- **ここから本時** -----

このような子どもに、総合して考える思考を促すために、「一体なぜ元気で活気のあるまちになったのか」と、学習問題についての結論を問い、コア・マトリクスのコア部分の考え(結論)をワークシートに記述させる。その後、考えを学級全体で交流させる。子どもは、**関係付けるすべ**を用いて、立場と様々な方策を総合して考え、「市民が自分たちのまちのために、地域のよさを生かして自分にできる工夫や努力、協力をしているから、元気で活気のあるまちになっているんだ」などと、元気で活気のあるまちにするための結論を導き出す。全体での考えの交流を通して子どもが納得のいく結論になったら、次のように働き掛ける。

働き掛け4 (1日目)
まちを活性化させるための活動をしている人の話を聞かせる。

子どもが考えた結論の妥当性を確かめさせるために、まちを活性化させるための活動をしている人(町屋商人会：吉川真嗣さん)に電話をかけ、質問させる。この場面では、吉川さんたちがどのようなことを考えてまちづくりをしているのかや、その結果まちがどうなったのか。また、まちづくりをするために大切なことを話してもらうようにする。また、吉川さんから、「みんなが住んでいる地域も同じように明るく元気なまちになってほしいと願っている」と投げ掛けてもらう。子どもは、吉川さんの話を聞き、自分たちが考えた結論の妥当性を確かめる。その後、学習問題について、分かったこと、考えたこと、思ったことを説明させる。子どもは**関係付けるすべ**を用いて、吉川さんの話と、自分たちが考えた学習問題についての結論を再構成し、「**市民が自分たちのまちのために自分にできる工夫や努力、協力をすることで、元気で活気のあるまちになることが分かった。だから、わたしも自分の地域の活動に進んで参加してまちづくりに協力していきたい**」などととらえ、**元気で活気のあるまちづくりの概念を獲得する子ども**になる。

働き掛け5 (宿題)
学習後の宿題として、2つの視点を与え、「社会科学習日記」を書かせる。

日常的に「社会科学習日記」(宿題)を書かせている。ここでは、①学習したこと・分かったこと・考えたことと、②考え方のコツを書かせるように指導する。子どもは、社会的な見方や考え方をメタ認知し、以降の学習においても学び方や考え方を活用して学習していくようになる。

5 指導計画 全16時間 (48Q)

別紙「指導計画」参照

6 本時の構想<1日目> 8/16時間 (45分授業)

(1) **ねらい**
まちの活性化につながる立場や方策(要因)を総合して、地域の特色を生かした元気で活気のあるまちづくりの概念をとらえることができる。

(2) **展開**

学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ	教師の働き掛け
<p>1 マトリクス部分の情報を総合して、学習問題についての結論を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つまり、まちの人や市民が協力しているからだと思う。 ・自分の家にあるものを生かしたり、よさをアピールしたりしているからだと思う。 ・まちの人や市民が、自分たちで工夫や努力、協力をして、まちを盛り上げたり、まちを昔っぽくしたりしているからだと思う。 ・工夫や努力って何ですか？ ・工夫は元々あるものを生かしていることで、努力は自分たちの力で黒塀などを作っていることです。 ・まちの人や市民が、自分たちのまちのために地域にあるもののよさを生かして自分にできる工夫や努力、協力をしているから、元気で活気のあるまちになったんじゃないか。 ・そして、自分の家や自分たちのまちに観光客がたくさんきてくれるようになったから、元気で活気のあるまちになったんだと思う。 <p>☆関係付けるすべ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・う～ん、まだ本当とは言えないな。 ・きっとそうだよ(まだ分からないから)確かめたい。 ・吉川さんに聞いてみたい。 	<p style="text-align: right;">【働き掛け3】</p> <p>※学習問題を提示する。</p> <p>◎「15年前はさみしそうなまちだったのに、なぜこんなに元気のある活気にあふれるまちになったのだろうか(どうやって観光客を増やしたのだろうか)」</p> <p>○説明「今日は、みんなの学習問題を解決しましょう」</p> <p>○説明「これまで、誰が何をしているか、分かったことや考えたことをマトリクスにまとめてきましたね」</p> <p>○発問「じゃあ、一体なぜ元気で活気あるまちになったのですか。コア部分はどのようになりますか」</p> <p>○指示「まずは、ワークシートの考え②に自分の考えを書きましょう」</p> <p>※補助発問：「何からそう考えたの」「それってどういうこと」と問う。</p> <p>○指示「みんなで話し合しましょう」</p> <p>※子どもの考えを板書する。</p> <p>※工夫や努力、協力という言葉について、具体的にどういうことがそれらに当たるのかを説明させる。</p> <p>○発問「みんなのコア部分はどのように書いたらいいですか」</p> <p>○発問「みんなはこのように考えているけれど、本当にそうなのかな」</p>
<p>2 吉川さんに電話をして、結論の妥当性を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉川さんに質問したい。 ・やっぱり合っていた。 ・まちの人たちや市民の力でまちづくりをしていることが分かりました。 ・反対されても、自分のまちのために頑張ったことが分かりました。 ・自分たちのまちにあるものを生かして、自分たちで工夫や努力、協力をすることが大切なんだと分かりました。 	<p style="text-align: right;">【働き掛け4】</p> <p>○指示「それでは、吉川さんに電話をして聞いてみましょう」</p> <p>※教室から吉川さんに電話をかけ、代表の子どもに質問をさせる。</p> <p>○発問「どんなところが合っていたのですか。吉川さんの話から、どんなことが分かりましたか」</p> <p>○指示「発表しましょう」</p>
<p>3 学習のまとめを記述する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの人や市民が、自分たちのまちのために、自分にできる工夫や努力、協力をしているから、元気で活気のあるまちになったことが分かりました。 ・わたしも自分の住んでいる地域の活動に進んで参加して、元気で活気のあるまちづくりに協力したいです。 <p>☆関係付けるすべ</p>	<p>○指示「学習のまとめとして、分かったことや考えたこと、思ったことの3つを入れて、ワークシートに書きましょう」</p> <p style="text-align: right;">【働き掛け5】</p> <p>○指示「今日の宿題は、社会科日記です。①②を必ず入れて書いてきましょう」</p>

(3) **評価**

まちの活性化につながる立場や方策(要因)を総合して、地域の特色を生かした元気で活気のあるまちづくりの概念をとらえることができたかどうかを、ワークシートの記述や発言から評価する。